

老後4,000万円問題

大家さん大学講座



NPO法人
都民シルバーサポートセンター



NPO法人

都民シルバーサポートセンター

設 立 : 2021年4月1日

主な活動 : ①**相談対応** : 老後のお悩み解決や希望の実現に向けて関連企業や専門家をコーディネートする役割
②**講演活動** : 終活の啓発に向けて年間60～70回の講演を行なう
※主な活動エリア : 都内全域(離島は除く)・神奈川県(主に横浜市)

活動原資 : 関連企業・専門家からの会員費と協賛金

登録/協定 : 中野区パートナーシップ協定
エンドオブライフケア学会登録会員
東京都保健医療局「がんポータル」がん患者支援登録団体

なぜ「2,000万円」が「4,000万円」に跳ね上がった？

そもそも「老後2,000万円問題」は、2019年に金融庁が報告した「夫65歳、妻60歳の夫婦が30年間生活する場合、**毎月約5.5万円の不足が生じ**、総額で 約2,000万円が不足する」という試算が発端。

インフレ(物価高)

仮にインフレ率が2%の場合



現在100円のは35年後には
約200円に

社会保障負担の増大

- 社会保険料の引き上げ
- 年金支給額の実質的な減少
- 医療・介護費の増大

生活実態から見る「4,000万円」の根拠

➤ 総務省の家計調査（2024年発表分）による不足額

- ・65歳以上の夫婦無職世帯の月額支出の平均額：約28.7万円……①
- ・公的年金等の実収入平均額：約25.2万円……②

95歳までの不足額： $② - ① \times 12 \text{か月} \times 30 \text{年} = \underline{-1,260 \text{万円}}$

➤ 生命保険文化センターの調査による「ゆとりある老後生活費」からみた不足額

- ・ゆとりある生活に必要な月額支出の平均額：約39.1万円……①
- ・公的年金等の実収入平均額：約25.2万円……②

95歳までの不足額： $② - ① \times 12 \text{か月} \times 30 \text{年} = \underline{-5,004 \text{万円}}$

インフレを加味すると約6,000万円の不足となる

「4,000万円」という数字は、決して誇張したものではなく、「**中程度のゆとりを持ちながら、インフレに備えるための最低ライン**」と言える。

老後を脅かす「3つのリスク」

長 寿
リスク

病気・介護
リスク

住宅修繕
賃料アップ^o
リスク

4,000万円を「つくる」ための3つの資産形成戦略

戦略①：新NISAのフル活用

投資で得た利益が一生涯非課税になる制度
(積立投資や成長投資で運用)

戦略②：iDeCo(個人型確定拠出年金)の活用

所得税・住民税の「所得控除」を受けながら老後資金を積み立てる制度

戦略③：長く働く(稼ぐ力の維持)

健康の維持、長く社会に関わる事での生きがいの持続

最後に

「4,000万円」という数字はあくまで**「平均的な生活を、最悪の経済環境(インフレ)でも守り抜くための目安」**に過ぎません。
アドバイスとして、以下の3点を冷静に実行してみても良いでしょう。

1、自分の老後の「身の丈」を知ること

⇒ いくらあれば幸せか？

2、公的年金を「土台」として強化すること

⇒ 長く働いて受給額を増やす

3、投資を「習慣」にすること

⇒ 新NISAなどを活用しインフレから身を守る

今と、その先の
ありがとうへ

継ぐサポ



終活は終わりを意味する言葉ではなく、次の世代へ継ぐことを併せ持つ言葉。

当団体のロゴは、次の世代へ継ぐことを四季（季節）で表現し、イチョウの見ごろである紅葉時の色“黄色”を『ご本人』に見立て、春先の若葉である“黄緑色”は『見守っているご家族』、春に芽吹く桜の“ピンク色”を『地域社会』に見立て、ご本人に寄り添い、またご本人を支えているご家族、地域社会にも寄り添いながら、皆様をサポートしていきたいという想いを込めました。

最後までご視聴いただき誠にありがとうございました